



## JR東労組中央本部

# 第45回定期大会を開催！



**スローガン・運動方針などを満場一致で承認！新体制を確立！**

### ～第45回大会スローガン～

1. 「2026JR総連春闘」と「過半数代表者選挙」の総括を明確にし、あらゆるハラスメントを撲滅した健全なJR東日本グループをつくり出すために、職場からの実践で組織の強化・拡大を全組合員で創り出そう！
1. 「安全・健康・ゆとり」が担保された職場をめざし、「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」をはじめとした会社施策の検証運動の強化、安易な赤字ローカル線の見直しに反対、安全第一・現場第一のJR東日本をつくり出そう！
1. あらゆるテロにも戦争にも反対！「抵抗とヒューマンズ」の精神を根底に、憲法9条改悪、労働諸法制改悪を阻止するために、連帯する仲間と共にたたかおう！

6月17～18日、大宮ソニックシティ小ホールにおいて、JR東労組中央本部第45回定期大会が開催されました。質疑では、千葉地本の4名から、「新規加入の実践について」「緩行線ワンマン施策を通じた組織強化」「10年後を見据えた青年部層の強化」「総対話行動について」等が発言され、これまでのたかひの成果や今後の運動方針を参加者全員で確認し、満場一致で承認されました。そして、新たなスローガンと活動方針のもと、10年先の組織を見据え、青年部層の関りを強化し、さらなる組織強化・拡大に向けた実践を仲間と共に作り出すことを確認し、大会は成功裏に終了しました。

### 千葉地本 大会発言者



千葉地本業務部長  
鈴木 大貴



千葉地本組織担当部長  
関 文弥



千葉地本組織担当部長  
北岡 隆紫



千葉支部業務部長  
栗原 奨

### 情報コンクール表彰



地本推薦特別賞 成田支部  
おめでとうございます！

### 《2026年度執行体制》

中央執行委員長	加藤 誠
中央執行副委員長 兼 総務財政部長	佐藤 伸也
中央執行副委員長 兼 組織研修部長	助川 一実
中央執行副委員長 書記長	佐々木 克之
企画部長	鶴ノ澤 信一
政治共闘部長	高橋 孝一
組織研修担当部長	田崎 聡
組織研修担当部長	清水 哲之
組織研修担当部長	伊藤 栄悦
情宣部長	重久 拓也
情宣担当部長	湯ノ目 矢子
情宣担当部長	久能 裕一
業務部長	斉藤 弘倫
業務担当部長	関原 和人
業務担当部長	熊澤 賢一
業務担当部長	本莊 洋一
総務・財政担当部長	遠藤 慶宣
会計監査委員	福田 潤一
会計監査委員	木元 隼人
会計監査委員	柳本 洋平
	藤原 大樹

### ～千葉地本選出～

鶴ノ澤 信一中央執行副委員長  
 柳本 洋平会計監査委員  
 砂塚 悠介業務部長

共に頑張ろう！

### 《第45回大会 大会宣言》

大会宣言(案)

JR東労組は、ソニックシティ小ホールにおいて「第45回定期大会」を開催し、スローガンをはじめとする運動方針などを満場一致で承認した。そして、組織強化・拡大の実践に向け、10年先の組織を見据え、青年部層の関りを強化し、さらなる組織強化・拡大に向けた実践を仲間と共に作り出すことを確認した。

2026JR総連春闘のたたかいは、人事・賃金制度の見直しを見据えたたたかひとなった。統一要求・統一闘争のもと、JRバス関東本部、JRバス東北本部、JESSの仲間と共にJR総連春闘をたたかひたい。そのたたかひの教訓は「会社に頼らずに自分自身で働くことが重要だ」という教訓が明確になった。

組織強化の実践についての発言は、「関係先と協定したから認められなかった」など、自らの課題や本音がさらされた。また、「なぜ教団が実現できないのか自分自身に向かい、意見を伝えるには自分自身が変わらなければならない」として、自らの転換と仲間の実践をつづ出した教訓的な発言もあった。仲間と本音で議論し、指摘し合い、お互いが強化されていくことにより、組織強化は成し遂げられることが教訓された。

会社は、信頼を失う事象を連綿して発生させたことから「グループ全体のガバナンスの改善と強化に向けた有識者委員会設置をうたった具体的な改善案」を公表した。JR東労組としては、この間、ハラスメント、勤務時間中の社会活動、組合所属による差別など、団体交渉で健康も損傷してきているが改善は認められない。発言では、事故について現場の人為的ミスによるものと発表され、言うこと聞かない社員に対しての暴力を認めるかのような姿勢、会社に希望を伝えられなかったとされる。区分の関りを認め、区分をわがものとするという返答など、具体的な改善案は現場段階において実行されていないと指摘をうけた。そして、大規模輸送運賃のみならず、事故・事業が止まらない。

今こそ、組織強化を推進した有識者委員会を強化し、安全を守るため、労働組合としてチェック機能を発揮していかなければならない。決議と約束も公表されたが、経営者の責任を現場の組合員・社員に押し付けるものであってはならない。現場第一線の組合員・社員の日々の業務をつらいつらいつら見守るべきだ。安全だけではなく、労働環境や生活実態なども含め、現場との意識、認識の乖離に未だ気づかない経営陣に対して、私たちは労働組合として現場実態を踏み、踏み出す必要がある。認められなければならない。総対話で先陣をたかひながら、安全・健康・ゆとりある職場にするため、安全第一・現場第一で、いかなるハラスメントも許さず、安心して働く職場をめざし、たたかひを強化していく。

職場は、人事・賃金制度や組織再編など、大きな変化点を迎えている。区分を含めて健康と不満の声がすすんでいっている。地方ローカル線の問題も地元地域と寄り添う姿勢が見られないことが明らかになった。だからこそ、「安全・健康・ゆとりある職場をめざし、職場からの積極的検証運動を展開して」こうではないか。7月には組織再編に伴い過半数代表者選挙が行われる。勝利に向けて運動をつづけていく。

世界情勢の不安定で戦争がかり、国内も戦争体制づくりが急がれ進められている。高所得階級の暴走を止めるためにあらゆる手段も必要に反対し、憲法9条を守り、さらなる広範な連帯をつづけていく。沖縄県と研修を発展・強化し、「抵抗とヒューマンズ」の精神を掲げ、取り巻く情勢を見定めながら、労働者としての感性を高めていく。

昨年JR東労組は結成40年を迎える。これからはJR東労組運動を職場からつづけていく組織を築いていくために、JR東労組の存在意義と仲間と共に考え、行動しよう。全てのたたかひの根本は現場からの実践であり、共にたたかひ仲間との存在だ。さらなる組織強化・拡大の実践をつづけて、1万人組織の実現に向けて、邁進してこうではないか！

以上、宣言する。

2026年6月18日  
 日本労務連労働組合  
 第45回定期大会

安全な職場と安心して暮らせる社会の実現に向けて、  
 全組合員で組織強化・拡大に向けた実践を、本部と共に作り出そう！